

- ◆**学校名** 八尾市立高安西小学校 八尾市立高美小学校 富田林市立錦郡小学校  
富田林市立小金台小学校 羽曳野市立高鷲小学校
- ◆**主題名** 自他の生命を尊重して ◆**道徳の内容** D－生命の尊重
- ◆**ねらい** 自他の生命を尊重する精神を養うとともに、生命がかけがえのないものであることを知る。

◎**中心的な発問**

誕生祝いののしづくろに書かれた字を見て、ぼくはどんなことを考えただろう。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点
導入	<p>◎これまでに「命はかけがえのないものだ」と思ったことを交流する。</p> <p>5</p>	<p>今までに「命はかけがえのないものだ」と思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいちゃんやおばあちゃんが亡くなった時</li> <li>・飼っていた動物がなくなった時</li> <li>・東北の震災や災害で多くの人が亡くなった時</li> </ul>	<p>○友だちの意見を聞いて知ること、生命尊重の価値への意識付けを図る。</p>
展開	<p>◎自分で微読音または黙読する。</p> <p>◎担任による資料の範読を聞く。</p> <p>◎ぼく・じいちゃんの心情について考える。</p>	<p>余命3ヶ月と聞いた後の大地の行動とその思いを出し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日病院にお見舞いに通った (少しでも自分が行くことで元気になってほしい)</li> <li>・病院に弁当をもっていき、一緒に食べた。 (少しでも楽しく時間を過ごしてほしいから)</li> <li>・じいちゃんを励ました。 (少しでも長く生きてほしい)</li> </ul> <p>どんなことを考えながら毎日じいちゃんの病院へ通っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死なないでほしい。</li> <li>・最後になるかもしれない。</li> <li>・後悔しないように精一杯のことをしてあげたい。</li> </ul> <p>じいちゃんは、どのような思いで手を握り返しただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大地、今までありがとう。</li> <li>・遊ぶのを我慢して、じいちゃんのところへ来てくれてありがとう。</li> </ul>	<p>○祖父の死が迫っていることを知り、動揺するぼくの気持ちに気づかせる。</p> <p>○残された祖父との時間を大切に過ごそうとするぼくの気持ちに気づく。</p> <p>○祖父の立場にたって考えさせることでも、限りある命について考えを深めさせるようにする。</p>

<p style="text-align: center;">30</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">誕生祝いの のしぶくろに書かれた字を見て、ぼくはどんなことを考えただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じいちゃんの方までぼくはしっかり生きていくからね。</li> <li>・誕生日は一ヶ月先なのに・・・いつもぼくのことを考えてくれていたんだね。</li> </ul>	<p>&lt;評価&gt;ぼくが、じいちゃん（自分の命）が死を予測していてまでも、自分（孫の命）を大切に思ってくれたことを知ったことに気付かせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発言の様子</p> <p>&lt;評価をいかした支援&gt; 誕生日がまだ先であることを捉えさせる。／「これからも見守っている」というメッセージに気付かせる。</p>
<p>◎おじいちゃんに手紙を書く。</p> <p>◎命について自分の考えを表現する。</p> <p style="text-align: center;">10</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A おじいちゃんに手紙を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとじいちゃんとの思い出を作っておきたかった。</li> <li>・じいちゃんの方まで頑張って生きていくよ。心配しないでね。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B 大地はその後どのような生き方をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで以上に命の大切さを知り、身近な命を大切にしていく。</li> <li>・自分の命と他人の命を大切にしながら生きていこう。</li> <li>・毎日を無駄にしないように生きていく。</li> </ul>	<p>A・B 選択して活動する。</p> <p>&lt;評価&gt; 祖父の思いを受けついで、前向きに生きていこうと考えるぼくの気持ちに気づくことができたか。</p> <p>&lt;評価&gt; 自身も生命のかけがえのなさを感ずき、自他の命を尊重する重要性を知った上で、大地の今後の生き方を自分なりに表現できたか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記述</p>

# <その思いを受けついで>

5年 組 名前 ( )

①のしぶくろの字を読んで、「ぼく」はどんなことを思ったでしょう。  
じいちゃんに返事を書いてみましょう。

じいちゃんへ



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



大地より

②今日の学習で、命について考えたことを書きましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

## ◆研究のまとめ

### ○授業実践について、チームとしてのまとめ

- ・児童の生い立ち、生活背景により登場人物の心情理解に大きな開きがでる。
- ・しかしながら、教材をしっかり受け止めた児童の発言により、他の児童も気持ちを揺さぶられる。
- ・「思いを受け継ぐ」ことがテーマであるので、単に「自分の命を大切にする。」だけでなく「他者の命」への思いも深めたい。(自分の命に関しての感想だけで終わる児童が多い。授業の工夫を)
- ・「命は大切。」と簡単な表現しか出来ない児童、「正直よく分からない。」と言う児童もいる。すべての児童に一回の授業で十分に理解させることは難しい。「生命の尊重」の内容項目の授業を1年生から丁寧に積みあげる必要を感じた。
- ・家庭的に課題のある児童にとっては厳しい教材か、とも議論になったが、授業をしてみると家庭の状況に関わらず、深く受け止めていた。
- ・死を扱うので教材としてデリケート。同様の状況の児童がいる中での授業は躊躇される。
- ・授業の中で活発な議論となるような場面も少なく、淡々とした授業になった面もあるが、登場人物の心情が読み取りやすく描かれおり、子どもたちがともに静かに考えられる良い教材である。
- ・私達は中心発問を「おじいさんに手紙を書こう。」と「誕生祝いののしぶくろに書かれた字を見て、ぼくはどんなことを考えただろう。」と二通り用意した。「手紙を書こう。」では、おじいさんに対して表面的な言葉に終わる児童が多かった。後者の中心発問の方が児童の考えを深められる。
- ・のし袋の意味(特別な時に送るもの、くしゃくしゃになったのし袋が表すおじいさんの思い)について考えさせた後に子どもの感想を書かせると、より深まった。授業者は中心発問の意味を児童に届けるための工夫が欲しい。

### ○道徳の評価についての提言

#### ●記述による評価

- ・まずは、ワークシートやノートなどを使って記述させていく。ただし、字数や国語的表現力を評価するのではなく、発達段階や個性をふまえ、道徳的価値のねらいにせまる表記を評価していく。
- ・「自分の考え」「友達の考え」「ふりかえり」など課題を変えて記述させていく。
- ・ふりかえりを点数化して、1時間の授業の自己評価をさせることで、自己を見つめさせ、学びのあとを残す。
- ・最初に道徳における「自分の目標」を設定させ、1年間の自己の成長の振り返りをさせる。

#### ●発表による評価

- ・記述が苦手な児童においては、ペア・グループ・全体での意見交流の中で、しっかり聞き取りメモをさせ、自己表現の手立てとする。
- ・年間を通じての児童の発表の変化・成長を評価していけるよう、発言内容を教師はメモしておく。

## 【各校での実践の記録】

### ◆実施学年（6年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

##### <評価1について>

3割程度の児童が、「ぼくのために」という言葉を使って書くことが出来ていた。じいちゃんが、自分の死を予測して、「ぼくのために思ってくれていた」ということを深く理解していたと考えられる。しかしながら、ほとんどの児童が「じいちゃん、ありがとう」という言葉どまりで、ぼくを思うじいちゃんの思いまでに目を向けられていないと考えられる。

##### <評価2について>

ほとんどの児童が、「辛いことがあっても頑張る」「じいちゃんの分も頑張る」ということを書けていた。「じいちゃんありがとう。」「見守っていてね。」という記述も比較的多かったが、それだけでは、評価が難しいと感じた。

##### <評価3について>

大地は今後、どのような生き方をしていくかを強調して問うことで、じいちゃんの死をきっかけに大地の考えがどう変化したのかを考えられた児童が多かった。「これからは、自分の命も他人の命も大切にしよう。」「限られた命だから時間を大切にしよう。」と書いている児童は自他の命についてよく考えられていたと見ることができる。一方で、自分の命についてはしっかりと考えが書けているが、他の命についての記述が無かった児童も数名いたので、「じいちゃんの死から、他の命を大切にしよう」と強く思ったと思う」という児童の発言を取り上げて紹介する等して本質理解へ向けての支援を行った。

#### ○成果と課題

##### 成果

多少なりとも高学年にもなれば、綺麗言を並べたり、本心とは違うけど正しい答えのようなことを脚色して書いたりする児童もいると予想される。しかし、それでも自分の考えをしっかりと書けている児童は「学ぶべきことを理解している」とし、評価できると感じられた。

##### 課題

思うことや感じられたことがきちんと自分の中にあるのに、文章表現力が乏しく、表現できない児童がいた。そのような児童を評価することが今後課題になっていくと考えられる。評価する方法としては例えば、授業中の発言を注意して聞き取り、メモをとるなどして指導者側が細やかに記録を残す必要性が出てくるだろう。

また、例えば、命について考えたことが「誰かが死ぬと悲しい。」とのみ書いてある児童など、指導者側が予想していた考えと違う考えを出した児童の評価をどうするべきなのか考える必要があると感じた。

## ◆実施学年（6年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

今回の授業のねらいは自他の命を尊重することや、生命がはかないものであると知ることである。そのねらいに児童が迫れているのかどうか、発言する様子、聞く様子、ワークシートに書いてある内容をもとに評価を行った。

中心発問では、じいちゃんからもらった手紙に返事を書く活動をした。返事の内容は「ありがとう。」や「忘れないで。」「これからも見守ってね。」という、家族の愛について意見を書いてしまう児童が多かった。授業のねらいに迫るためには、じいちゃんからの手紙の内容だけでなく、しわくちんの“のしぶくろ”や、“つたない字で書かれたメッセージ”といった手紙の様子も合わせて押さえることが必要な支援となった。

それらの支援により、じいちゃんの思いを受け取った大地がどのように感じ、どのように生きていこうと考えたかを、気づかせ考えさせたい。児童からは以下のような意見が出た。

<児童の意見より>…大地のこれからの生き方を考えられているもの

- ・一人前の人間になれるようにしっかり生きていくから見守っていてね。
- ・じいちゃんのみで生きていくからね。
- ・命は短く、あっという間に消えてしまうから、思い切り楽しんで生きていくよ。
- ・自分の命を大切にしていこうよ。見守ってね。

#### ○成果と課題

<成果>

いきなり意見を発表させるよりも、ワークシートに記述した方が、自分の考えを練りやすく、交流のツールとしても使用しやすい。また、一定量を記述するとなると、感想に自身の経験をおりまぜて書く児童も多く、自分と重ね合わせて考えている様子を見てとりやすい。

また、中心発問時に登場人物の様子や心情をしっかりとイメージさせることができれば、ねらいとする道徳的価値にせまる意見も少しずつ出るようになった。それらの意見を交流することで、児童が自分の考えを深めることができた。

<課題>

まずは教材選びが大切となる。読み物教材では、児童が自分と重ね合わせて考えやすいものや、話の中へ入っていきやすいものを選ばなければならない。しかし、それらの教材が毎回児童にとって“読みやすい”ものとは限らない。そのため、次に読み取りの工夫が大切になる。教師からは国語のようになってしまうという声も聞かれるが、読み取りができないまま授業を進めては、児童が考えを持つことや深めることが難しくなる。中心発問に関わる部分に焦点を絞るなど、読み取り部分を精選し、丁寧に登場人物の心情やその変化などを考えさせる必要がある。

また、ワークシートの記述内容を分析することや、授業中の意見の交流の様子などを観察記録する方法を具体的に考える必要がある。特に観察による評価は、1時間の中でクラス全員の評価を一度に行うことが難しく、計画的に進めていかなければならないと感じた。

## ◆実施学年（5年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

##### ○中心発問の場面の記述や発言の様子から

- ・のしぶくろに書かれた字は、弱く震えた字であったが、じいちゃんの思いは温かく強いものであることを押さえて考えさせるようにした。
- ・「じいちゃんありがとう」と記述する子が多かったが、どんなことに感謝しているのか、感謝以外に思いはなかったか考えるように助言した。

##### ○振り返りの場面の発表から

- ・「命を大切に」という同じ思いでも、いろいろな表現方法があることに気づかせ、それぞれの言葉を尊重するようにした。
- ・命を守るといこうは、自ら命を絶たないということも含まれるのだということ、友達の意見から知り、日本の自殺者の数を知ることで、さらに命について考えさせるようにした。

#### ○成果と課題

##### （成果）

- ・ワークシートを活用することで、より深く考え記述することができた。
- ・じいちゃんへの返事という形をとったことで、「ぼく」に寄り添って考えることができた。
- ・全員発表を促すことで、それぞれの意見を共有することができた。

##### （課題）

- ・一面的には、命の大切さを感じ取ることができたとは思いますが、「命を受けつぐ」「他の人の命も大切にする」という思いを実感させるのは難しかった。今後多様な資料を活用する中で考えさせていきたい。

### ◆子どものワークシートより

- ・お父さんやお母さんがいなかったら私が生まれてこなかったので、この命を大切にしたい。
- ・命は、最後の最後まで大切に使わないといけない。自殺や殺人はしてはいけない。
- ・命は人から人へ受けつがれているから、こうして命があることがとてもありがたい。
- ・命がなくなるって、とても悲しいことだ。
- ・戦争などでたくさんの命をなくすようなことをしないようにしたい。
- ・命は一生に一度しかないから、命の終わりまで大切に歩んでいきたい。
- ・命を大切にしてみんな元気だったらいいなと思った。
- ・一日一日を大切に過ごして、笑って、泣いて、おこって、苦しんでという人生にしたい。
- ・お母さんが流産しかけたけど守ってくれた命なので、大切にしていきたい。
- ・命を捨てたら悲しむ人がいるから捨ててはいけない。
- ・つくってもらった命やから、傷つけたりしたらあかんと思う。
- ・おばあちゃんが天国へ旅立ったことを思い出し、もっと生きていかなければならないなと思った。
- ・命があって幸せだと思った。命ってすごい。
- ・命って親から子へ受けついでいくんだなと思いました。
- ・おじいちゃんが生きてい間にしてあげたかったことができなくて、それがこうかいです。
- ・病気になっても一日一日を大切に生きている人がいることをあらためて分かりました。
- ・命って何より一番大切なものだなと思いました。

実践校名（富田林市立錦郡小学校）